

テーマ

「静岡県助産師会 助産院のお産パネル展」開催



キーワード: 助産院, 開業助産師, お産

○活動に取り組んだきっかけ・背景

健康科学部看護学科の3年生は、後期に約5か月間、8専門領域の病院や医療施設などで看護学実習を行います。母性看護学実習では、病院、助産院、地域子育て支援センターで計2週間の実習を行います。今回実習施設でもある助産院の助産師さんにお声がけいただき、水落地域貢献課と共同でパネル展を開催しました。

○活動の目的

助産院のお産パネル展は、次世代を担う若い世代に、妊娠・出産など数年先の未来をイメージする機会となること、また、学生や生徒だけではなく教職員を含めたくさんの方々に、妊娠や出産に関わる専門職の助産師が、地域で女性や子ども、家族を支えていることを知ってもらいたいと思い企画しました。

○具体的な内容

助産院のお産パネル展は、常葉大学のすべてのキャンパスの他に、常葉大学附属の三つの中学・高等学校でも開催され、多くの方々にご覧いただきました。みなさんから多くの感想が寄せられ「赤ちゃんを抱えてうれしそうにほほえんでいるお母さんを見て、泣きそうになりました。」「私を産んでくれた母に感謝したいです。」「出産をする人には、助産師さんやお父さんになる人の存在が大きいことがわかった。」など、11枚の大判パネルには、誕生したばかりの命の輝きや、誕生を喜んでいる家族、助産院の助産師さんの姿が収められており、命の大切さや神秘性、地域にいる専門職の役割に触れる機会となりました。感動的な写真を見て、改めて「助産師になりたい」と思った生徒さんもあり、素敵な写真や言葉の数々が多くのみなさんの心に響いたようです。

○期待される効果など

病院での出産が主流になっている今、地域には助産院があり、開業助産師が妊娠、出産や子育てを支えていることを知ってもらう機会となりました。若い世代が将来出産場所を考える際に、助産院が選択肢の1つになることが期待できます。またお産は痛いものとイメージする前に、赤ちゃんの誕生は感動的で幸せなこととわかって頂けたと思います。



教員名 菊地 美帆

所属学部・学科 健康科学部 看護学科

職位 准教授



連携先

静岡県助産師会

水落地域貢献課